

## 令和2年度 社会福祉法人掛川社会福祉事業会事業報告書

新型コロナウイルス感染症の全国的な拡大の影響を受け、法人事業の年度計画も大幅な見直しが余儀なくされました。事業利用者への感染予防を図るため、職員個々の健康管理を徹底して押し進め、職員が感染の媒介とならないよう、業務上だけでなく日常生活においても細心の注意を促して参りました。利用者の生活環境保全に関しては、衛生設備及び備品の整備に重点を置き、安心できる居場所作りに努めました。所謂、3密を防ぐための工夫を随所に取り入れ、ハード・ソフト両面で感染予防に努めて参りました。

利用者を受け入れる事業現場では、コロナ感染による利用者の減少は最小限に留まり、収入面において影響を及ぼす程度には至らなかったものの、感染予防に関する衛生用品等の消耗品や環境整備に要する備品整備及び一部設備改修が必要となり、支出経費が嵩むこととなりました。このような情勢に対しましては、国による支援金支給が同時に実施されたため、法人負担を極力抑制することができました。

2年度事業の柱である働き方改革については、令和3年4月の施行を見据え、年度内においてを正規・非正規職員間の格差是正に向け法人内で必要な取組みを進めて参りました。通勤手当等合理的な説明ができない格差が内在していた給与規程を一部改正するとともに、両者における賃金や手当の差異が適正に就労内容に反映するよう業務における役割・責任分掌を見直しました。

法人として全社的に進めていかなくてはならない課題への解消に向けては、人材確保、人材育成、地域貢献の3点に加え、防災に関する専門委員会を新たに設置し必要な取組みを継続するとともに、各事業に委員会の設置が法令規定されている、身体拘束廃止、事故防止、サービスの質の管理、感染褥瘡予防への取組みについても、法人内適用事業所間の不均衡が生じないように、運営管理を実施して参りました。

法人事務事業実績は下記の通りです。

### (1) 評議員会の開催

◇令和2年6月19日（第1回定時評議員会） 書面決議による開催

議案第1号	令和元年度掛川社会福祉事業会計算書類及び財産目録について
報告第1号	令和元年度掛川社会福祉事業会事業報告について
報告第2号	監事監査報告について
報告第3号	社会福祉充実残額について

◇令和2年10月1日（第2回評議員会） 書面決議による開催

議案第1号	令和2年度掛川社会福祉事業会補正予算について
-------	------------------------

◇令和3年3月24日（第3回評議員会）

- 議案第1号 令和2年度掛川社会福祉事業会補正予算について
- 議案第2号 令和3年度事業計画について
- 議案第3号 令和3年度掛川社会福祉事業会予算について

(2) 理事会の開催

◇令和2年6月5日（第1回理事会） 書面決議による開催

- 議案第1号 令和元年度事業報告（案）について
- 議案第2号 令和元年度掛川社会福祉事業会決算及び財産目録（案）について
- 議案第3号 評議員選任・解任委員の選任案について
- 議案第4号 評議員会の招集日程及び提出議案について

◇令和2年9月23日（第2回理事会） 書面決議による開催

- 議案第1号 養護老人ホーム掛川市ききょう荘における指定制度指定申請について
- 議案第2号 令和2年度社会福祉法人掛川社会福祉事業会補正予算について
- 議案第3号 評議員会の招集日程及び提出議案について

◇令和2年12月23日（第3回理事会）

- 議案第1号 規程の一部改正について（給与規程改正関係）
- 報告第1号 中期監査報告
- 報告第2号 理事長の業務執行報告（3月～5月：6月～8月：9月～11月）

◇令和3年3月16日（第4回理事会）

- 議案第1号 令和2年度かけがわ苑拠点区分積立金の取崩しについて
- 議案第1号-1 令和2年度ききょう荘拠点区分積立金の取崩しについて
- 議案第2号 令和2年度掛川社会福祉事業会第2次補正予算案について
- 議案第3号 令和3年度かけがわ苑拠点区分積立金の積立及び取崩について
- 議案第3号-1 令和3年度ききょう荘拠点区分積立金の取崩しについて
- 議案第4号 令和3年度ききょう荘拠点区分前期支払資金残高の本部拠点区分への繰入について
- 議案第5号 令和3年度事業計画案について
- 議案第6号 令和3年度掛川社会福祉事業会予算案について
- 議案第7号 規程の一部改正について
- 議案第8号 評議員会の招集日程及び提出議案について
- 報告第1号 理事長の業務執行報告について

(3) 監事による監査の実施

決算監査（経理監査・業務監査） 令和2年 5月29日 実施

期中監査（業務監査） 令和2年 10月30日 実施

社会福祉法人の事務事業の執行状況と経理・財産の状況について、監事による監査を実施し事業の適正を期しました。

(4) 掛川市による社会福祉法人監査

令和2年度における受審実績なし

(5) 登記関係

資産の変更登記 令和2年6月25日 (794,242,787円)

(6) 建設資金等借入金償還関係

施設建設等資金としての島田掛川信用金庫からの借入、償還状況は資料1（参照）の通りです。

(7) 寄付金等の受入状況

現金 575,000円（物品寄付分については対象となる寄付行為はなし）

(8) 職員の動向（年間）

正規職員新規採用者数	正規職員退職者数	非常勤職員新規採用者数	非常勤職員退職者数
8人	6人	4人	10人

(9) 法人事業所利用者事故（医療機関受診ケース）発生数 16件

(10) サービスに係る苦情受付件数 14件

## 令和2年度 特別養護老人ホームかけがわ苑 事業報告書

### 総括

令和2年度の特別養護老人ホームかけがわ苑は、新型コロナウイルス感染流行に直面した中で、利用者及び職員から感染者が発生しないよう予防対策の取組みに尽力致しました。年度当初より感染予防備品の確保に奔走し、施設内における予防対策については感染褥瘡防止委員会を中心に検討を重ね水際対策に着手致しました。またコロナ禍での事業継続計画を作成し利用者の生活を守るべき手段を常に考えながらサービス提供に努めて参りました。

利用者処遇については、個性を反映したケアプランの作成とその内容の充実を図るため、「私の暮らしシート」の活用とさらに「利用者の声・想い」を抽出したことによりニーズを明確化することが出来ました。さらにサービス提供に係る各専門職が協働しながら利用者個々に対する介護過程の展開や認知症ケアの実践に努めました。

褥瘡ケアへの取り組みについては、個々に褥瘡の予防や治療に向けた計画書を作成し状態に即したケアの実践を行って参りました。褥瘡発生に関する学習と適切な対処方法の確立、褥瘡予防に有効な介護用品の選定と多岐にわたる取り組みにより、状態の改善に努めました。

地域貢献活動につきましては、コロナ禍のため、専門職による出張講話等は中止されましたが、新たな活動として、生活困窮者に対しての食糧支援「フードバンク」への参加に多数職員が協賛するとともに、施設からは入れ替え用の防災備蓄食品等を掛川市社会福祉協議会に提供しました。

### 1. 利用者の状況について

#### ア-1) 利用者実績（在籍率：年間平均 98.6%）

定員 80 名	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
延べ日数	2367	2467	2367	2458	2463	2347	2464	2382	2440	2395	2213	2422
在籍率	98.7	99.5	98.6	99.2	99.4	97.8	99.4	99.3	98.5	96.7	98.8	97.8

※小数点第2位以下切り上げ計上

#### ア-2) 入退所及び入退院状況（前年度）

新規入所者数	退所者数	入院実人数	延べ入院日数	延べ外泊日数	施設内看取り 実績
22 人 (20 人)	23 人 (19 人)	14 人 (14 人)	145 日 (297 日)	0 日 (5 日)	18 件 (12 件)

ア-3) 新規入所申込者数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
人数	1	3	10	7	4	9	5	3	11	5	6	6	70

ア-4) 要介護度の分布 (月初基準)

介護度	1	2	3	4	5	平均介護度
4月(期首)	0	1	21	32	26	4.11
3月(期末)	0	1	18	27	32	4.15
比較増減	0	0	△3	△5	6	0.04

入所者の介護度が重くなっているためか、罹患時の入院日数が増加するとともに平均在籍期間も短縮傾向がみられます。

ア-5) 保険者に対する事故報告該当件数

年間 15件 (前年度 15件)

内訳は、骨折事故 9件、打撲事故 1件、受傷により縫合処置した事故 2件、

内出血・血種等 3件となっております。

2. 家族等関係者及び地域との連携について

ア-1) 家族との連携 (前年度)

面会者延べ人数	1日平均面会者数
91人 (2,175人)	0.24人 (5,9人)

厚労省からの通達を基に新型コロナウイルス感染防止対策を講じながら、市中の感染拡大状況を見定めつつ、年間で40日間程度の面会を実施致しました。また、対面による面会の代替として9月より、映像端末を使用したリモート面会をご家族に案内し、10%程のご家族が利用されました。

ア-2) 地域等との連携 (前年度)

ボランティア 受入実人数	ボランティア 受入延べ人数	ボランティア 1日平均受入人数	新規ボランティ ア実人数 (再掲)	実習生受入 延べ人数
0人 (53人)	0人・1団体 (273人・10団体)	0.00人 (0.74人)	0人・1団体 (1人・0団体)	0人 (86人)

ア-3) 優先入所検討委員会 3回開催 (7月28日・11月27日・3月23日)

優先入所基準に照らし、慎重に入所予定順位を精査、決定致しました。令和3年3月31日現在、

入所申込者（待機者）は要介護3未満の申込者を含め124名となっております。優先入所基準では、在宅での介護が困難な方々に配慮されていることから、優先入所検討委員会において、介護者の状況については、その実態を確認することが必要になりました。空きベッド発生による入所申し込み者に対する入所案内時に、保留またはキャンセルをする方が多いことを考慮し、入所の最終意思に関する待機者リストの管理に努めました。また優先入所順位上位者へ診療情報提供書の作成依頼を行うことで、入所決定から入所日までの空床日数の短縮に努めました。

### 3. 相談援助部門

新型コロナウイルス感染防止対策を踏まえた新たな面会方法の確立と、リモート面会の開設にてご家族との交流の場を提供することが出来ました。

1年間を通じて利用者の日常生活風景等の写真撮影を積極的に行い、定期的に利用者の写真を活用したカレンダーを作成し、疎遠になりつつあったご家族に対して提供することで、利用者を身近に感じて頂くことと致しました。

また新型コロナウイルス感染予防対策として、市民によるボランティア活動及び実習生の受入れについては中止と致しました。今後は感染の流行時期を見定め、受入れの再開時期を各団体、学校と協議し、予防策を講じた上での受け入れ環境を整備して参ります。

入所相談については、感染予防対策を講じての来所による手続きを継続致しましたが、来所前に電話等で予め確認項目を整理し、来所当日は短時間での相談対応となるよう努めました。今後は、互いの接触を回避し感染リスクを軽減するとともに、遠隔地からも簡便に申し込みができる新たな入所申込み方法としてインターネットからの受付が出来るように検討することが必要であると考えます。

利用者の権利擁護の観点から成年後見人制度の申請が必要と判断した事例について関係機関等と連携して手続きを進めて参りました。また虐待防止についても「不適切ケア」を日々の業務において意識し職員への啓発に努めました。

### 4. 栄養管理部門

適切かつ効率的な食事提供として「ソフト食」「ミキサー食」の栄養集計表を基に充足率評価を行いました。不足する部分については、食事量は大きく変えず栄養化を充足できるよう日清医療食品と献立の見直しを行いました。食事内容の改善により主食量の見直しや、栄養補助食品の中止を行ない、施設で提供する食事で十分な栄養が補給出来るように改善に努めました。

サービスの質の向上として、毎月1回「手作りおやつ」の提供を行いました。市販の菓子とは異なる手作りの「温かみ」を提供することで、利用者の楽しみとなり好評を頂くことが出来ました。

また給食委託業者とは、非常時における食事提供について協議を重ねながら、リスク管理の一環として、新型コロナウイルス発生時や災害発生時に備えた協力体制を、次年度も引き続き確立出来るよう取り組んで参ります。

## 5. 介護・看護部門

今年度は、コロナ禍における未曾有の制約下の中であっても、「その人らしい日常の暮らし」が送れるよう利用者処遇面でも試行錯誤の一年でした。ケアプランの作成に際しては、利用者の声や想いを一層大切にするため、ケア記録項目に「私の暮らしシート」と「利用者の声・想い」の区分を設けて利用者の声を抽出出来るように整備し、介護過程の実践に繋げました。

また、外部からコロナウイルスが持ち込まれないよう、職員の健康管理はもとより標準予防策を徹底させ、疑いのある新規入所者にも、入所前に抗原検査を実施し水際対策の実施に努めました。

褥瘡予防の取組みについては、職員に対して「栄養」や「シーティング」等の内部研修を開催し、知識と技術の向上を図りながら多職種協働による「褥瘡予防対策に関するケア計画書」を作成・交付して対応方法を可視化しました。今後も多職種間で情報共有と迅速な検討を行い、褥瘡悪化に対しての受診時期を見誤ることの無いように早目の対応に努めて参ります。

また、生産性の向上と働き方改革双方を推進するよう、とろみ付けサーバー、離床センサー付きベッド、マッスルスール等様々な介護関連機器を積極的に試行し研究を重ねました。

## 7. 行事余暇活動等の実施について

### アー1) 余暇活動参加実績

	実施回数	備考
季節活動等	3回	七夕、正月、節分、
慰問	0回	コロナ禍により中止

### アー2) 主要行事開催実績

	実施回数	備考
納涼縁日	1回	各フロア開催
敬老会	1回	各フロア開催
クリスマス会	1回	各フロア開催

## 8. 防災対策実施状況

- ・年間訓練実施回数（フロア）30回
- ・総合防災訓練 2回

## 9. サービスの質の管理及び向上への取り組み状況

ア) 内部研修開催実績 年28回

イ) 外部研修参加実績 年21回（WEB研修受講含む）

ウ) 施設内委員会活動実績 (一部 介護保険法規定)

委員会名	会議開催	主な活動内容
身体拘束・事故防止委員会	各 12 回	事故検証 (再発防止策の実施状況等)、内部研修の開催、拘束適用の可否判断と廃止への意識啓発
感染褥瘡防止委員会	12 回	新型コロナウイルス感染対策、その他感染症・褥瘡予防の啓発、褥瘡予防ケア計画書の更新、除圧クッションの購入、各感染症マニュアルの作成、内部研修の開催、機能向上型エアマットの更新
サービス向上委員会	12 回	運営指針の作成、内部研修の開催、外部評価の実施 (評価結果に基づく改善)

10. 地域交流としての取り組み状況

内容	実施回数	主な活動内容
ふれあい広場	0 回	コロナ禍で中止となる。
第 5 地区文化祭	0 回	コロナ禍であり辞退する。



## 令和2年度 かけがわ苑 短期入所生活介護事業所 事業報告書

### 総括

今年度のかげがわ苑短期入所生活介護事業所は、新型コロナウイルス感染症の脅威下でありながら、感染対策を講じつつ安心、安全にサービスを提供した結果、年間稼働率は90.6%でした。目標稼働率の92%と比較し実績では多少下回る結果となりましたが、かけがわ苑の「利用者本位」の基本理念に従い、利用者・家族の意向に寄り添った対応を心掛けたことで、新型コロナウイルス感染症に対する利用控えの影響を大きく受けることはありませんでした。

目標稼働率が下回った原因としては、利用者の心身状態の変化による利用中止や入所系のサービスへの移行によるものと、新規利用者の確保が困難であったことが挙げられます。

そのような中でも、医療的ケアを必要とする利用者の受け入れ基準を確立し、感染予防策の徹底を講じたことで、居宅介護支援事業所との信頼関係を築く事ができ、新規利用者の紹介やリピート利用に繋がっております。

### 1. 利用実績

ア-1) 月間状況 ※平均利用者数は1日あたりの利用者数

定員7人	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平均利用者数	6.2	6.4	6.4	6.0	6.2	6.7	6.4	6.5	6.3	6.1	6.5	6.4
利用実人数	26	26	26	28	28	27	23	21	24	22	20	23
延べ人数	187	198	192	187	190	200	196	196	195	190	181	197
平均介護度	3.6	3.5	3.4	3.3	3.2	3.3	3.2	3.4	3.4	3.4	3.0	2.9
稼働率(%)	89.0	91.8	91.9	86.2	88.5	95.2	91.2	93.3	89.9	87.6	92.4	90.8

※小数点第2位切り上げ計上

ア-2) 年間状況(前年度)

利用者延べ人数	1日当たり 平均利用者数	新規契約者数	平均介護度	年間稼働率
2,309人 (2,403人)	6.3人 (6.4人)	16人 (20人)	3.3 (3.5)	90.6% (92.3%)

※小数点第2位切り上げ計上

アー 3) 年間介護度別延べ人数 (前年度)

要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
29 人 (53 人)	373 人 (417 人)	1316 人 (896 人)	76 人 (360 人)	520 人 (477 人)
△24	△44	420	△284	43

アー 4) 年間性別割合 (前年度)

男性	女性
9.4% (21.3%)	90.6% (78.7%)

アー 5) 年間空床利用 (前年度)

特養空床数	空床利用数
451 床 (478 床)	5 床 (26 床)

※特養空床は退所・入院・外泊時に発生、外泊加算算定期間中を含む。

空床利用に関しては、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、特養入所者への蔓延リスクを低減させるため、令和 3 年 1 月より多床棟の空床利用は中止し、従来型個室のみの対応としました。

イー 1) 保険者に対する事故報告件数 (医療機関受診を必要とする程度の事故)

年間 2 件 (前年度 0 件)

【発生日】令和 2 年 8 月 22 日(土) 【介護度】要介護 3 【年齢性別】92 歳女性

【概要】入浴中、個浴槽より転落し、後頭部と右臀部が赤くなる。後日、担当居宅介護支援事業所より頭部の受傷について問い合わせがあり、再度検証して受診となったケース。医師の所見は、今後 3 ヶ月間は頭部硬膜外血腫が起こっていないか要観察とのことだったが、変調みられず創部も治癒した。

【発生日】令和 2 年 9 月 18 日(金) 【介護度】要介護 3 【年齢性別】83 歳男性

【概要】夜間、物音が聞こえ居室に駆け付けた時、P トイレと共に転倒していた所を発見。次の日、ご家族より電話あり。痛みを訴え受診し、結果背部を骨折していたケース。

2. 家族・関係機関との連携状況

・サービス担当者会議参加回数 9 回

今年度は、新型コロナウイルス感染症発生予防措置として、ケアプラン更新時のサービス担当者会議は開催されず、書面照会で情報共有する事業所が多く、前年の 23 回と比較し開催数が減

少ししました。そのような中でも開催されたサービス担当者会議には、日々の支援に対する報告がより詳細に伝える事が出来るように、利用者ケアに主として携わる介護職員が事前資料を作成し、感染予防対策として、会議には利用者と直接関わる介護職員等を避け生活相談員が代理出席しました。

### 3. サービスの質の管理及び向上に向けての取組状況

#### ・新型コロナウイルス感染症対策の強化

施設においては、他者の接触を遮るクリアパーテーションや空気清浄機の設置をするなど環境改善を図るとともに、職員には正しい手洗い・消毒・マスクの着用等、標準予防策の徹底に努めました。また、外部から感染症が持ち込まれないよう、感染褥瘡防止委員会と連携しながら利用者宅への施設からの要請事項及び注意喚起情報を文書等で発信致しました。

機能訓練の一環として行っているスチームフットスパやハンドマッサージについては、施術中、利用者と職員が対面になることから、衛生面を配慮し実施を見合わせましたが、その他レクリエーションは、3密を避けながら週2回の実施を継続致しました。

また、当初年間計画で予定していた当苑の三大行事（納涼祭・敬老会・クリスマス会）やその他の季節行事についても規模や内容を見直して実施しました。

**令和2年度 かけがわ苑**  
**(介護予防) 通所介護事業所 事業報告書**

**総括**

4月より正規職員が3名異動という新体制の中、利用者サービスの改善に向け、集団活動日課を見直し、個別支援方法を検討して参りました。

市中感染が拡大する中、在宅高齢者をお預かりするサービスであるだけに、感染予防に関しては、フロア内の環境整備、消毒や清掃、送迎時の検温、体調の把握など利用者だけでなく、職員の体調管理にも気を配り、職員が媒介者にならないよう対策を徹底して参りました。

要介護状態の変化により利用回数が増えた利用者もおりましたが、反面、必要介護量が増したことで、在宅生活での限界を迎え施設入所に至るケースも多く発生し、1日当たりの利用者数は元年度(17.1人)を若干上回りましたが、平均介護度は低下致しました(元年度平均介護度2.1)。

認知症利用者のケアに際しては、介護職員の研修参加により認知症加算算定要件を満たしたため、2月から算定を再開し、専門的ケアの実践により利用者が穏やかに安心して過ごせる居場所づくりを心掛けて参りました。

機能訓練につきましては、正規看護師によるニーズに応じた個別対応化とグループでのリハビリ体操の実施など多様性を取り入れ、利用者が楽しく積極的に取り組めるメニューを導入し、心身機能の維持に繋がるよう努めて参りました。

総合事業対象者、要支援状態の方に対しましては、余暇活動などにおいて利用者それぞれが主体的に、役割意識をもって活動参加できるよう工夫を致しました。

1. 利用者の状況について

介護及び予防給付対象利用者の利用実績は、1日当たりの定員30人に対し20.5人、利用率は68.3%でした。

ア-1) 通所サービス提供実績

平日	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
介護平均人員	17.4	18.7	19.1	19.9	18.9	16.6	17.8	18.6	18.8	18.9	19.6	19.6	18.7
利用実績(延回数)	383	393	420	458	396	366	392	391	414	378	392	450	402.8
平均介護度(予防含む)	2.1	2.0	2.0	2.1	2.0	2.0	1.9	1.9	1.9	1.8	1.8	1.8	1.9
利用実績(予防人員)	9	8	9	9	9	9	12	9	7	8	8	8	8.8
利用実績(延回数)	40	31	34	41	40	46	51	39	37	35	36	45	39.6
利用率(予防含む)	64.0	67.3	68.7	72.3	69.3	62.3	67.0	68.3	68.3	69.0	71.3	71.7	68.3

\*実施日数=月曜日から金曜日。ただし、1月1日~1月3日を除く

\*利用率=定員合計（30名）に占める月利用延人数合計の割合

ア-2) 年度内状況

新規利用者数	契約解除者数	体験利用者数	キャンセル数
36人	41人	30人	538件

※体験利用者のうち15名が、サービス利用契約締結に至りました

※キャンセルの主な内訳

自己都合	169件	体調不良	118件	受診・入院	122件
施設入所	23件	コロナ関連	67件	他サービス利用	9件
その他	20件				

・今年度はコロナ関連（利用控え）でキャンセル数が増えました。

2. 家族・関係機関と連携状況

ア) 事業所便り（和顔愛語）の発行

年 1回発行

イ) ボランティア受入実績

年間受入延べ人数 (個人) 0人 (団体) 0団体

・コロナ市中感染状況を考慮し、今年度はボランティアの受け入れは中止しました。

3. サービス提供状況

ア) 認知症加算の対象者（日常生活自立度Ⅲ以上）

・今年度は令和3年2月より加算算定開始しました。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
人数											12	14
割合											27.9	34.1

※加算条件：利用者の総数のうち認知症日常生活自立度Ⅲの方の割合が年平均で20%以上

4. 防災対策実施状況

年間訓練実施回数	10回	
内容別訓練回数	利用者避難誘導訓練	4回
	防災講話	2回
	職員防災研修	4回

利用中の地震・火災・水害に対する避難訓練を行いました。また、特養との同時訓練を2回行っております。職員防災研修として、福祉避難所の在り方や停電時の機械浴脱出操作を学びました。

## 5. サービスの質の管理及び向上に向けての取組状況

### ア) 内部研修開催実績

年 6 回 開催

事故防止、身体拘束廃止、新型コロナウイルス感染症やノロウイルスなどの感染予防対策、サービス向上や防災についての研修を隔月に開催し職員の資質向上に努めました。

### イ) 外部研修参加実績

年 9 回 参加

認知症実践研修では、認知症利用者との関わり方や環境の作り方などを学び、過ごしやすい居場所作り等利用者処遇に活かしております。指導職研修では、チームリーダーとしての心得を再確認致しました。掛川市が主催する災害時応援協定締結事業所連絡会に参加し、新型コロナウイルス感染禍における状況と対応を学び、市内の関係事業所と情報共有を図り連携を深めました。

### ウ) 利用者・家族満足度アンケートの実施

年 1 回

**令和2年度 かけがわ苑  
居宅介護支援事業所 事業報告書**

**総括**

令和2年度の事業所運営にあたっては、新型コロナウイルス感染症の予防対策を優先し、利用者宅を訪問する介護支援専門員が感染症の媒介者にならないよう、自らの行動自粛と体調管理を徹底し業務に従事して参りました。

事業の主たる業務として位置付けられている利用者及び関係事業者参加のもとで開催が要請されているサービス担当者会議や利用者自宅訪問によるモニタリングなどにおいては、厚生労働省からの通知により、規定方法以外の柔軟な取り扱いが出来るよう定められたため、利用者、ご家族様にご理解をいただき、感染機会を減らしつつ実施致しました。

ケアプラン作成の目標は月160件でしたが、全ての介護支援専門員が積極的に受入をすすめた結果、目標件数にほぼ到達致しました。

令和2年度法人内職員異動により主任介護支援専門員は1名体制となりましたが、ケアプラン作成管理に際しては相互牽制体制を保ち、適正なケアマネジメントを展開して参りました。職員各自では、専門職としての能力の向上に努め、包括支援センターと連携のもと積極的に困難事例にも対応して参りました。

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、多人数で集う集合研修が中止となり、市内の事業所連絡会も規模が縮小されたため情報共有の場も減少しましたが、年度途中から少しずつオンラインでの研修等も始まったため、事業所内の環境の整備を行いWEBでの研修参加に切り替えて参りました。

1. 利用者の状況について

アー1) 居宅介護支援サービス提供実績

単位：件

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	平均
計画作成数	154	159	159	163	160	160	162	162	161	157	158	160	1915	159.5
ケアマネ1人 当りの作成数	30.8	31.8	31.8	32.6	32.0	32.0	32.4	32.4	32.2	31.4	31.6	32.0	/	31.9

単位：人

年度内新規利用者数	年度内契約解約者数
74人	43人

※解約者の内訳 ①施設入所23人 ②死亡15人

③要支援状態への移行2人 ④転居、事業所変更3人

新規利用者につきましては、包括支援センターからの紹介が最も多かったものの、ご家族

からの直接依頼も増えています。

アー 2) 利用者の状況

単位：人

介護度	1	2	3	4	5	3～5の割合
4月(期首)	57	51	28	13	5	29.8%
3月(期末)	57	59	26	9	9	27.5%
比較増減	0	8	△2	△4	4	

※当月利用述べ人員の1日当たりの平均とし、小数点第2位を切り上げる。

イー 1) 介護予防支援サービス提供実績

単位：件

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	平均
計画作成数	27	24	25	26	25	27	32	36	34	40	39	38	373	31.0
ケアマネ1人当り	5.8	5.2	5.2	5.6	6.2	6.4	6.0	5.8	6.2	6.0	5.4	5.6		5.8

(総合事業対象者含む)

イー 2)

単位：人

年度内新規利用者数	年度内契約解除者数
12人	4人

※解約者の内訳 死亡 1名 介護給付への移行 3名

2. 受託事業の実施状況

介護認定調査実績

単位：件

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
調査実施件数	2	0	3	3	0	0	0	3	0	0	0	0	11

介護認定調査につきましては、市内のコロナ感染状況を踏まえケアマネジャーが媒介者にならないよう、受託を見送りました。

3. サービスの質の管理及び向上に向けての取組状況

ア) 内部研修開催実績

年 3 回開催

職員会議及び定例会議の中で、外部研修に参加した職員による内部研修を行い、職員への周知をはかることで資質向上に努めました。

イ) 外部研修参加実績

年間 12 回参加



新型コロナウイルス感染症予防ため、介護支援専門員研修がほとんど実施されなかったため、職員一人当たりの参加は2回程度に留まりました。

ウ) 合同事例検討会

年2回

市役所にて例年3ヶ月に1度開催されていた事例検討会は、コロナ感染予防により1度も開催されなかったため、代替として市内3事業所で声を掛け合い、自主的に開催しました。

エ) その他

利用者アンケート 年1回実施

令和2年度  
掛川市西部地域包括支援センター事業報告書

**総括**

高齢化が進むなか、住み慣れた地域で生活が継続できるよう支援体制の充実を図っていくためにも、「医療・看護」「介護・リハビリテーション」「保健・予防」の専門職による効果的な役目を果たすことができるよう連携を図り、地域包括ケアシステムの構築に努めて参りました。

令和2年度は コロナ禍により、感染に対する不安からか、センターへの訪問相談件数の減少を含め、通年に比べて相談件数は減少傾向にありました。全体的に西部圏域では、生き生きデイサービスの時間短縮により体力低下を伴う高齢者が介護保険に移行する事例や生活困窮している方など、コロナに影響された事例がありました。包括支援センター業務は、電話だけでは状態把握ができず顔の見える関係作りの必要性を痛感する年でもありました。また当センターでは、認知症地域支援や個別課題など職員間で話し合いを多く設け、情報・知識の共有に努めて参りました。法人内の地域貢献委員会でもコロナ禍でも実績を残せる活動を検討し、地域貢献活動を実施して参りました。

1. 総合相談支援

地域ニーズの「ワンストップサービス」の拠点として、ふくしあ開所後、入所団体との連携はもとより、必要に応じて市役所（高齢者健康長寿課・福祉課）をはじめ多岐にわたる分野との連携を図り各種サービスに繋げました。総合相談件数は、昨年度に比べ約1800件減少致しました。

年間相談総合件数4,655件の相談内容内訳の上位は昨年同様、介護保険に関する事由が最も多く1,854件、続いて居宅サービスの利用調整が1,472件、ついで各病院地域連携室からの退院調整、ターミナル支援等医療に関する相談が1,395件となりました。

<圏域内状況及び相談経路>

単位：件

	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
高齢者数	5,841人	6,120人	6,318人	6,584人	6,820人	6,951人	7,048人
高齢化率	21.5%	22.6%	23.3%	24.2%	25.1%	25.5%	26.06%
職員人員	正規：3人 非正規：1人	正規：3人 非正規：1人	正規：3人 非正規：1人	正規：3人 非正規：1人	正規：4人 非正規：1人	正規：4人 非正規：1人	正規：4人 非正規：1人
来所	499	482	495	567	693	643	521

電 話	3148	3201	3175	3336	4225	4224	2916
訪 問	1703	1822	1787	1667	2239	1622	1218
合 計	5350	5506	5457	5570	7157	6488	4655

<高齢者実態把握調査：新規把握者・追加再入力者・新規登録者>

単位：

件

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
8	9	0	0	12	14	10	17	20	17	15	25	147

新規相談件数は、「医療」「認知症」相談数が、本年度も全体の半数を占めました。医療相談では、癌末期、脳梗塞、65歳以下の癌末期などの相談も多くありました。

地区別新規相談者数は交通の利便性から、桜木地区（82件）が多い現状です。その他、上西郷地区（35件）和田岡地区（31件）、の相談件数となりました。

## 2. 権利擁護業務

### 1) 成年後見制度の活用・促進

権利擁護業務に関する相談は、182件で、昨年と比べ約36件増加している現状のなか、成年後見制度に繋がった事例は1件ありました。

### 2) 虐待事案への対応

「高齢者虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律」等に基づき、高齢者虐待相談の窓口として通報を受け、速やかに実態把握（事実確認）を行い、事例に即した適切な対応に努めました。また「権利擁護連絡票」の活用をすることで支援者の高齢者虐待予防意識化となりました。

◎市とのケース会議を1回実施

### 3) 困難事例への対応

生活困窮、複合的家族の事例については、専門職種が相互に連携し対応に努めました。

### 4) 消費者被害への対応

訪問販売等による消費者被害に対しては、掛川市消費生活センターと適宜、情報交換を行い、被害ケースに対応しました。

5) その他

圏域内の専門職（薬剤師・リハビリ職）権利擁護団体（弁護士・司法書士）との意見交換会等、多職種との「ネットワークの構築」は感染予防対策を整え、交流会を開催致しました。

〈権利擁護相談件数〉

単位：件

	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
虐待	1 2	9 4	7 3	6 8	6 8	5 5	1 7
権利	17 4	8 2	12 1	22 0	18 1	14 6	18 2
消費	25	15	18	2	8	1 8	0
合計	21 1	19 1	21 2	29 0	25 7	21 9	19 9

〈高齢者見守りネットワーク推進事業に関する協定事業所との連携〉

回数：0回

3. 包括的・継続的ケアマネジメント業務

高齢者が地域で生活できるようケアマネジャーなど様々な職種と連携し、個々の高齢者の状況や変化に応じて包括的継続的にマネジメントを行いました。

- 1) 包括支援センターをより身近な存在に感じてもらうために、職員紹介や業務報告等を掲載した包括だより「ほっこり」を年2回発行し医療機関、サービス事業所、居宅介護支援事業所などに配布致しました。
- 2) 地域の介護支援専門員に対して、電話や来所によりケアプラン作成技法等の相談を受け、助言を行ないました。
- 3) 地域の介護支援専門員が抱える支援困難事例について、各種専門職種の職員や地域の関係者、関係機関と連携し、同行訪問、サービス担当者会議に参加し問題解決に向けて後方支援を行ないました。

4. 介護予防ケアマネジメント

①介護予防給付について

〈介護予防支援費請求件数〉

単位

数：件

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	平均
直営	10	9	10	11	11	8	9	9	9	9	9	7	111	9.25
委託	55	56	59	58	57	56	58	61	60	59	62	62	703	58.5
合計	65	65	69	69	68	66	67	70	69	68	71	69	814	67.8

<利用者の状況>

単位

数：人

	要支援1	要支援2	合計
直営	50	60	111
委託	186	517	703

②第1号介護予防支援事業について

<介護予防ケアマネジメント請求件数>

単位数：

件

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	平均
直営	23	24	27	24	27	26	28	34	34	32	32	32	343	28.5
委託	32	33	34	34	32	35	39	41	39	42	41	32	446	30.7
合計	55	55	54	55	56	52	57	55	58	56	53	52	789	65.7

<利用者の状況>

単位

数：人

	事業対象者	要支援1	要支援2	合計
直営	332	11	0	343
委託	154	97	195	446

<介護保険改正に伴う総合事業導入後の直営・委託件数動向>

3月実績比較

	平成30年度			令和元年度			令和2年度		
	介護予防 ケアマネ ジメント	件数	合計	介護予防 ケアマネ ジメント	件数	合計	介護予防 ケアマネ ジメント	件数	合計
直営	予防給付	11	39	予防給付	10	30	予防給付	9	41
	事業対象者	28		事業対象者	20		事業対象者	32	
委託	予防給付	67	100	予防給付	57	89	予防給付	62	100

	事業対象者	33		事業対象者	32		事業対象者	38	
--	-------	----	--	-------	----	--	-------	----	--

## 5. その他

### <個別地域ケア会議>

開催数： 12 回（開催時期：随時）

内 容：会議内容としては、認知症・経済困窮、本人又は同居家族精神疾患、社会的孤立、複合的家族関係問題等、取り上げました。

### <地域ケア会議>

開催数： 10 回 開催時期：（8～10月懇話会・2月・3月）

内 容：懇話会では、民生委員にふくしあ団体、介護保険についての説明を行いました。

その他では民生委員が介入した事例の紹介、課題検討等の情報収集と意見交換を実施。懇話会以外での地域ケア会議では、困窮者に対しての食支援について、認知症独居の方の支援間のネットワークの構築を図りました。

### <相談協力員懇話会>

開催数： 8回（開催時期：8月～10月）

内 容：ふくしあ団体にも参加していただき、各団体の役割説明を行いました。また市が発行した介護保険ガイドブックを使用し介護保険の説明を行いました。コロナ禍で活動に対して不安があった民生委員と顔の見える関係を築き、事例などを紹介しながら、民生委員の介入について意見交換を行いました。

### <生活支援体制整備事業に関する取り組み>

#### ◎掛川市地域支え合い推進協議会

開催数： 0 回

#### ◎生活支援コーディネーター（SC）との連携

開催数： 0 回

### <ケアマネサロン活動>

開催数： 0 回

内 容：居宅事業所との集まりの場「ほくほく」は今年度は開催しませんでした。5包括研修につきましても、準備期間として令和3年度に向けて5包括で検討を重ねて参りました。

### <事業所連絡会>

開催数： 2 回（全体会2回）

内 容：コロナ禍により市役所からの連絡事項のみ発信されました。

#### <事例検討会>

開催数： 0 回

内 容： 開催なし

#### <資質向上検討委員会>

開催数： 1 回

内 容： 「障害者福祉について」の研修をWEBにて開催されました。

#### <地域密着型サービス事業所の運営推進会議>

開催数： 0 回

内 容：書面での報告のみ（家代の里グループホーム）

#### <健康教育等講話>

開催数： 2 回

内 容：地域のシニアクラブにて熱中症予防対策やコロナ感染予防の講話を行いました。

#### <地域包括支援センター専門職会議>

開催数： 15回（保健師：5回 社会福祉士：5回 主任ケアマネジャー：5回）

内 容：専門職ごとの情報交換及び課題検討

#### <申請手続き>

地域包括支援センターは「身近な地域の窓口」として、申込者の意向を踏まえ、介護保険サービス及び福祉サービスが円滑に提供されるために必要な申請が行われるよう援助致しました。

（ 件

数）

住宅改修費支給申請書	1	生きがい活動支援申請書関連	8
緊急通報システム関連	1	配食サービス申請書関連	18

#### <職員研修>

2年度は、コロナ禍において対人での研修が中止となり、WEB研修の参加を致しました。

#### 【認知症総合支援事業】

##### ●総合相談

地域包括支援センター全体総合相談件数の約2割に認知症の相談が含まれていた。認知症に特化した総合相談の内訳は本人・家族、親族からの相談が約5割を占め、次いで医療機関からの相談でした。認知症相談支援において本人の意思の尊重よりも家族の思い（または地域）に対する支援を重視する傾向にあります。今年度は、認知症初期集中チームのあり方、知識を包括内で共有を図りました。また、西部圏域内に認知症カフェを開催する準備としてふくしあ社協と検討を図りました。

●ケース会議

◎認知症初期集中支援チーム

実施件数： 4 回

内 容：チーム員会議にて検討し、初期集中支援チームに4件繋がった。

●ネットワーク会議

◎認知症施策推進会議

開催数： 5 回（市事業の協力）

内 容： 認知症に関する関係機関とのネットワーク会議

認知症初期集中チーム・認知症カフェ事業進捗報告会等実施

◎キャラバンメイト連絡会（市事業への参加）

開催数： 0 回

内 容： 実働はなかった。

◎認知症多職種研修会（市事業の協力）

開催数： 0 回

内 容： 実働はなかった。

●広報啓発活動

◎「認知症」の支援体制の普及啓発講話

開催数： 0 回

内 容： 認知症ケアパスなどの周知活動は行ったが、講話の開催はなかった。

◎認知症の理解のための普及啓発「認知症サポーター養成講座」

開催数： 0 回

内 容：実働はなかった

◎認知症カフェ（市事業への協力）

実施件数： 6 回

内 容：認知症家族の介護負担軽減を図る活動

◎若年性認知症交流会（市事業への協力）

実施件数： 1 回

内 容：65歳以下の認知症家族の介護負担軽減・情報交換を図る活動



# 令和2年度 養護老人ホーム掛川市ききょう荘事業報告書

## 総括

令和2年度は新型コロナウイルス感染症対策として、人との接し方をはじめとする生活環境の変化や、「新しい生活様式」を実践する状況下において、様々なことを学びながら試行錯誤を続けて参りました。

新規利用者については、生活困窮者の受け入れを積極的に行っていくことを念頭に置き、実績として5名の方が入所されました。一方、施設の設定や医療体制の限界もあり、基礎疾患や身体的な理由で受け入れができず、他のサービスを提案するケースもありました。

人材確保・育成につきましては、職務分析を行い、職務説明書を作成しました。また記録業務の効率化を図るため、タブレット端末を導入しました。その他、コロナ禍における新たな取組みとして、面会や外部研修、会議などをリモートで行えるようにインターネット環境を整備しました。

事業計画については、3カ月ごとに各専門職において、目標に対する取り組みをモニタリングし、実施状況の把握・評価を行いました。また平成26年度に策定した「掛川社会福祉事業会10ヵ年計画」に基づく事業の進捗についても評価し、計画の更新に取り組みました。施設修繕につきましては、掛川市が策定した施設長寿命化改修計画に基づき、温水ボイラー及び貯湯槽更新工事が実施されました。さらに、かねてから要望していた居室用エアコンの設置工事も合わせて実施され、利用者の生活環境の改善が図られました。

## 1. 相談援助

### ①個別処遇計画におけるマネジメントプロセスの確立

- ・三者面談については、コロナ禍の感染予防の観点から、実施を見合わせました。ただし、緊急性がある場合には感染対策を徹底し、家族と個別に面談の機会を設けて対応しました。
- ・個別処遇計画については、年間計画に従い、支援・医務・栄養・相談の各専門職が多角的な視点で検討を行いました。福祉サービスや介護保険サービス等が必要な利用者に対しては、ケアプランを参考にしながら、個別処遇計画書を作成しました。特に新規利用者については、処遇会議や、部署間で検討を重ねました。

### ②入退所支援

- ・セルフネグレクト、障害の重複化、格差拡大による経済的困窮の深刻化など、新規利用者が持つ問題の複雑化により、初回アセスメントとだけでは、利用者の全体像を把握できないケースもありました。
- ・入所に際して、利用者又はその家族に対しサービス内容をわかりやすく説明できるよう各書式の見直しを行いました。
- ・入所調整については、クラスター対策として、入所日までの体温測定を実施してもらい、入所後2週間の個室対応など、経過観察を徹底しました。退所調整については、担当ケアマネジャーや

受入れ施設の相談員と密接な連携を図り、退所手続きを滞りなく進めることができました。

## 2. 生活支援

### ①日常生活の充実

- ・利用者が自らの趣味又は嗜好に応じた活動を通じて充実した日常生活を送ることができるよう、感染防止対策を講じた「カラオケクラブ」を立ち上げました。
- ・買い物ツアーについては、コロナ禍により外出が自粛され、中止せざるを得ないと判断しました。その代替えとして利用者に食べたいものをリクエストしてもらい、飲食店からテイクアウトし、施設内で昼食会を開催しました。その他の行事は規模や内容を見直し、できるかぎり実施しました。

### ②地域との交流

- ・新型コロナウイルスの影響により、長年にわたって続けられてきた養護老人ホーム四施設合同運動会が廃止されました。その他、施設間交流会や家族、地域住民と交流する予定だったイベントは招待を中止しています。そのような中、ふじのくに花の都しずおか推進協議会の御厚意により、リモートによるフラワーアレンジメント体験講座に参加することができました。

## 3. 健康管理

### ①口腔機能の維持向上

- ・葛ヶ丘歯科医院の協力の下、初めて歯科健診を実施しました。口腔状態が悪い利用者が多いという結果が出たため、健康講話を企画し、利用者に歯の磨き方をレクチャーしました。

### ②感染症対策

- ・コロナ禍において、マスクの着用、手洗い、消毒の励行、密にならない行事の施行、テーブルに飛沫防止パーテーションを設置、外出・面会制限など、クラスターの未然防止にポイントを絞った対策を行いました。
- ・職員については、施設内において感染拡大を防ぐゾーニングの初動訓練を実施しました。

## 4. 食生活・栄養管理

### ①多様なニーズへの対応

- ・一年を通じ、昼食に軽食類や麺類等、ランチ風のメニューや、テレビなどで話題の食材を取り入れました。
- ・下半期には『STAY HOME』 de 『GO TO EAT 気分！！』 in ききょう荘！！』と題し、コンビニスイーツバイキングや、しずおかおでんバイキングを行い、コロナ禍で行事縮小が続いている中、利用者が施設内で楽しんで頂ける機会を設けました。外出できず世間との繋がりが持てない、今ならではの企画に利用者の皆様から大変喜ばれました。

### ②安全衛生

- ・厨房内の衛生確認と指導を行い、食中毒などの大きな事故なく、食事を提供すること

ができました。

- ・機器の故障により、業務に支障が発生しないよう計画的に長期間使用している機器（冷蔵庫・コンベクションオープン・食器洗浄機・給茶機）の入れ替えを行いました。
- ・災害時の食事提供については、備蓄食品の入替え作業を多職種で行い、保管場所や種類を共有することで災害時の食事支援に役立てるよう情報を共有しました。

## 5. 災害対策

### ①食材、備品の災害備蓄

- ・ランニングストックの考え方にに基づき、災害備蓄の入れ替えを行いました。

### ②災害時に備えた職員研修の実施

- ・令和2年9月に台風による停電を想定した防災教育、令和3年3月に自衛消防隊の役割確認を行いました。

### ③災害時に備えた総合防災訓練の実施

- ・避難行動の習熟度を上げることを目標に取り組みました。また情報伝達訓練や消火訓練なども盛り込み、総合防災訓練ならではの内容で実施しました。

## 6. 設備・環境整備

### ①ケア総合記録システムによる記録業務のICT化

- ・タブレット端末を導入し、紙の帳票を極力廃止すると共に、記録の転記など事務作業の軽減を図りました。また、タブレットを使用することで写真動画の記録が可能になり、それらを処遇記録、行事記録、研修資料として活用しました。

### ②防犯カメラの増設

- ・利用者が安心して生活できるように、施設へ来所される方の入出管理や、不審者等の侵入を未然に抑止する環境を整備しました。

### ③喫煙所の設置

- ・望まない受動喫煙を防止するため、新たな喫煙所の設置を予定しておりましたが、設置場所が決まらなかったため、今後も掛川市と協議を継続します。

### ④掛川市年次計画による更新対応等

- ・温水ボイラー貯湯槽更新工事及び居室エアコン設置工事が実施されました。

7. 統計資料等

①【年間利用者数】

数/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
月初利用者数	43	44	44	41	41	41	40	40	40	38	39	39	40.8
月初障害者加算人数	20	23	23	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22.0

②【年間入退所者数】

(令和3年3月31日現在)

区分	入所	退所	現員
男性	2名	4名	24名
女性	3名	4名	16名
計	5名	8名	40名

③【年齢別構成】

(令和3年3月31日在)

区分	64歳以下	65～69歳	70～79歳	80～89歳	90歳以上	計
男性	1名	6名	14名	3名	0名	24名
女性	1名	1名	4名	9名	1名	16名
計	2名	7名	18名	12名	1名	40名

男性平均年齢…72.0歳 女性平均年齢…80.6歳 全体平均年齢…75.4歳

④【在所期間別】

(令和3年3月31日現在)

区分	1年未満	1年以上3年未満	3年以上5年未満	5年以上10年未満	10年以上	計
男性	3名	9名	6名	6名	0名	24名
女性	1名	5名	1名	3名	6名	16名
計	4名	14名	7名	9名	6名	40名

男性平均期間…3.6年 女性平均期間…7.3年 全体平均期間…5.0年

⑤【要介護認定状況】

(令和3年3月31日現在)

区分	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	計
男性	1人	1人	5人	0人	0人	7人
女性	0人	1人	2人	2人	0人	5人
計	1人	2人	7人	2人	0人	12人

## ⑥【日常生活動作等の状況】

(令和3年3月31日現在)

項目	介助不要	一部介助	全介助	計
食事	40名	0名	0名	40名
排泄	39名	1名	0名	40名
入浴	33名	7名	0名	40名
体位	40名	0名	0名	40名
着脱	40名	0名	0名	40名
移動	40名	0名	0名	40名

## ⑦【ボランティア活動の状況】 ※コロナ禍のため、受け入れ中止。

区分/月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
保/小中高	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
一般男子	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
一般女子	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
人数計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

## ⑧【面会者調べ】 ※リモート面会含む。(面会日数…同一日は重複して計上しない)

数/月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
面会日数(日)	0	0	7	6	0	9	13	1	0	0	0	1	37
面会者数(名)	0	0	3	4	0	6	8	1	0	0	0	1	23

## ⑨【外出・外泊調べ】

(受診、デイサービス、事務手続きを除く)

数/月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
外出者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
外泊者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
泊日数(日)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

## 8. 医療関係調書

【嘱託医】 岡田医院 岡田裕美子先生

【診察日】 毎月2回 木曜日

①入院状況

中東遠総合医療センター	1名	川口会病院	1名
磐田病院	1名	小笠病院	1名

②外来受診状況

《中東遠総合医療センター》

眼科	1名	整形外科	1名	泌尿器科	1名
外科	1名	呼吸器科	1名	消化器内科	1名
循環器科	0名	耳鼻科	1名	認知症	2名
脳神経内科	1名	脳外科	0名	皮膚科	0名
CT・MRI	6名				

《その他の医療機関》

岡田医院	40名	増田内科循環器科	1名	葛ヶ丘歯科医院	39名
とやま眼科	6名	掛川海谷眼科	3名	あつみクリニック	2名
高松クリニック	1名	磐田病院消化器科	1名	小笠病院	3名
東海クリニック	2名	川口会病院	11名	ひぐち呼吸内科	1名
泉地歯科	1名	きたはらクリニック	1名	吉岡クリニック	1名

③定期検診

- ・ 9月 聴打診・血圧測定・尿検査・血液検査・身長・体重
- ・ 3月 聴打診・血圧測定・尿検査・血液検査・心電図・胸部レントゲン・身長・体重

④インフルエンザ予防接種

- ・ 10月、11月実施

9. 防災訓練実施状況

月日	種類	訓練内容	参加者
4月30日	図上訓練	・ 水平避難の解説と施設の見取り図を利用したシミュレーション	職員 5名
5月28日	避難誘導訓練 (夜間想定)	・ 一時待避場所を活用した避難	職員 8名 利用者 40名
6月25日	避難誘導訓練 (夜間想定)	・ 一時待避場所を活用した避難	職員 8名 利用者 34名

7月30日	避難誘導訓練 (日中想定)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体の流れと職員の動きの確認</li> <li>・土砂災害を想定した避難</li> </ul>	職員 8名 利用者 36名
8月25日	避難誘導訓練 (日中想定)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体の流れと職員の動きの確認</li> <li>・震度5の地震を想定した避難</li> </ul>	職員 9名 利用者 35名
9月4日	防災教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・台風による停電を想定し備蓄や発電機等を確認する。</li> </ul>	職員 8名
9月29日	避難誘導訓練 (夜間想定)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一時待避場所を活用した避難</li> </ul>	職員 8名 利用者 35名
10月29日	避難誘導訓練 (夜間想定)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一時待避場所を活用した避難</li> </ul> <p>11月の総合防災訓練の事前訓練</p>	職員 8名 利用者 35名
11月10日	総合防災訓練 (夜間火災想定)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体の流れと職員の動きの確認</li> <li>・避難誘導訓練</li> <li>・情報伝達訓練</li> <li>・消火訓練</li> </ul>	職員 9名 利用者 36名
12月24日	避難誘導訓練 (夜間想定)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一時待避場所を活用した避難</li> </ul>	職員 9名 利用者 36名
1月25日	図上訓練	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図上火災訓練</li> </ul> <p>(Fire Image Game) の実施。</p>	職員 7名
2月25日	避難誘導訓練 (火災想定)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・火災を想定した避難</li> </ul>	職員 9名 利用者 31名
3月29日	避難訓練 (火災想定)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・火災を想定した避難</li> <li>・非常持出袋の確認</li> </ul>	職員 8名 利用者 34名
同日	防災教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自衛消防隊の役割確認</li> </ul>	